

## (4) 実践事例

## 実践事例① (A校)

A校の6月の実践では、言語活動を行う際に、具体的な評価規準を示していなかったために、何ができたらのような力が付いたと言えるのかが理解できていない生徒がいました(イ)。そのため、11月の実践では言語活動に入る前に自己評価表を配付し、身に付けさせたい資質・能力を明示する手立てを取りました(A②)。また、グループ活動の後、個人の考えが深まっていない生徒もいることが分かりました(サ、タ)。その要因としては、生徒が考えたことや書いたものを全体で共有させる場が少なかったことが考えられました。そこで、個人の考えを全体で発表する場を設定し、自分と他者との考えを比較させることで新たな考えを発見させたり、自分の考えを深めさせたりする手立てを取り入れました(A⑦⑧、B⑦)。

単元名 小説を読んで自分の考えを持つ

—「少年の日の思い出」の登場人物を「どう思いますか」—

教材名 「少年の日の思い出」 ヘルマン・ヘッセ(光村図書 1年)

朝日新聞 投書欄「どう思いますか」

指導計画(全6時間)

次	時間	学 習 活 動	手立て
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語や小説の学習を振り返り、単元の見通しを持つ。</li> <li>・単元の学習課題を設定し、学習計画を確認する。</li> <li>・朗読選抜チーム、語彙力アップチームを編成し、小説を深く読む準備をする(読みの構えを持つ)。</li> </ul>	A②
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読選抜チームによる朗読を聞く(「少年の日の思い出」を読む)。</li> <li>・「少年の日の思い出」の登場人物を「どう思いますか」の投書モデル(A・B・C)を読む。</li> <li>・返書を書く投書モデルを選ぶ。</li> </ul>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が選んだ投書へ返書を書く。</li> <li>・返書を書く過程で、「語彙集め」をする。</li> </ul>	
	4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表すための語句を適切に選んで返書を書き換える。</li> </ul>	A⑦⑧ B⑦
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・返書の内容を1分で伝える発表会の練習をする。</li> </ul>	
三	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1分間で伝える発表会」を行う。</li> <li>・単元の学習を振り返る。</li> </ul>	

本時の目標

自分の考えを表す語句を吟味して返書を書き換える。(伝国ウ)

	主な学習活動	教師の働き掛け(○)、授業の質的改善のための手立て([ ])
導 入	1 前時の学習を振り返る。	○生徒が書いた前時の振り返りの中から、本時の目標に関連する記述を電子黒板に提示し、全体で共有することで本時の学習活動への意識付けを行った。
	2 本時の学習の見通しを持つ。	○授業が始まる前に「吟味」の意味を国語辞典で調べさせ、目標とともにワークシート（自分が書いた返書）に記述させた。
	本時のめあて 自分の考えを表す語句を吟味し、返書を書き換えよう。	
展 開	3 自分の考えを表す語彙の一覧を確認し、返書を書き換える見通しを持つ。	○生徒が書いた返書から登場人物について自分の考えを表す語彙を一覧にして提示し、返書を書き換える見通しを持たせるとともに、書き換える意欲を高めるようにした。 ○自分の考えを伝えるために「この語彙にこだわって返書を書き換えた」と振り返ることができるように意識させ、本時の学習活動の目的を伝えた。
	4 自分が書いた返書を読み、グループで吟味したい語句について学習することを知る。	○返書の考えの部分に着目させるために、自分が書いた返書を読み、自分の考えの部分と「少年の日の思い出」の文章から引用した部分（根拠）にそれぞれ色を分けて線を引かせた。
	5 自分の考えを表す語句を吟味して返書を書き換える。	○自分の考えを表す語彙に着目して返書を書き換えるために、返書を書く際に用いた自己評価表を基にして、自分の返書を自己評価させた。 [A⑦]
		○選んだ投書モデル（A・B・C）ごとにグループを編成し（3～4人）、自分と他者を比較させて自分の考えを明確にさせるようにした。 [B⑦]
		○グループ活動の役割について、進行係、アイディア係、コミュニケーション係の中からアンケートを採って選ばせ、生徒がグループの中での自分の役割を自覚し、一人一人が力を発揮できるように配慮してグループ編成を行った。 ○グループ活動の時間を踏まえ、課題解決のための方法と手順を決定させて、グループ活動に入らせた。 ○グループのメンバーが書いた返書を比較しながら読むことができるように、1枚の紙に集約して配付した。 ○グループのメンバーが書いた返書を集約した用紙に、返書



		<p>を書き換えるためにグループで話し合った過程を記録させた。</p> <p>○本単元の学習活動において作成した「自分の考えを表す語彙一覧」と「語彙力アップシート集」、また、国語辞典を基にして、自分の考えを表すための語彙を吟味させた。 [A⑧]</p> <p>○話し合いの様子を見ながら、グループごとに課題解決の方法と手順に沿ってグループ活動が進んでいるか声を掛けて確認した。</p>
<p>ま と め</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の目標を書かせたワークシートに学習の振り返りを記述させた。</p> <p>○本時の学習で用いた「自分の考えを表す語彙一覧」は、社会科の学習で投書を書く際にも使える資料であることを伝えた（単元開きの際に新聞に掲載された先輩の投書記事を提示した）。</p> <p>○次時の学習内容を確認し、学習活動への展望を持たせた。</p>

**検証授業を振り返って**

(成果○ 課題●)

- 複数のモデル文の中から、自分の考えを表すのにふさわしいものを選んで返事を書かせるという言語活動で、自分の問いを持たせることができました。
- グループ構成の際に、進行係、アイデア係、コミュニケーション係の中から、事前アンケートで自分にできそうな係を選ばせるという工夫をしたため、話し合いがスムーズに進みました。
- 自分や友達を書いた返書の中の語彙に関心を持って活動させることができました。
- 自分の考えを表すためには、単語レベルの書き換えでは不十分だったので、その単語の文章中の働きにまで目を向けさせる必要があります。
- どんな力が身に付くのかを単元開きで示したが、生徒に学習への期待感を持たせるまでには至りませんでした。その授業で身に付く力に加えて、それが役立つ場面と身に付けるための手立てまで知らせることで、生徒を主体的な学びに導くことができると考えられます (イ→A②)。
- 言葉を書き換えさせるときに、何ができたか(どんな言葉に書き換えたら)考えが深まったと言えるかを、生徒に提示することができませんでした。自己評価表の改善が必要と考えられます (セ→C⑧)。